資料２－１

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の概要

環境省 Ministry of the Environment

調査の目的・概要

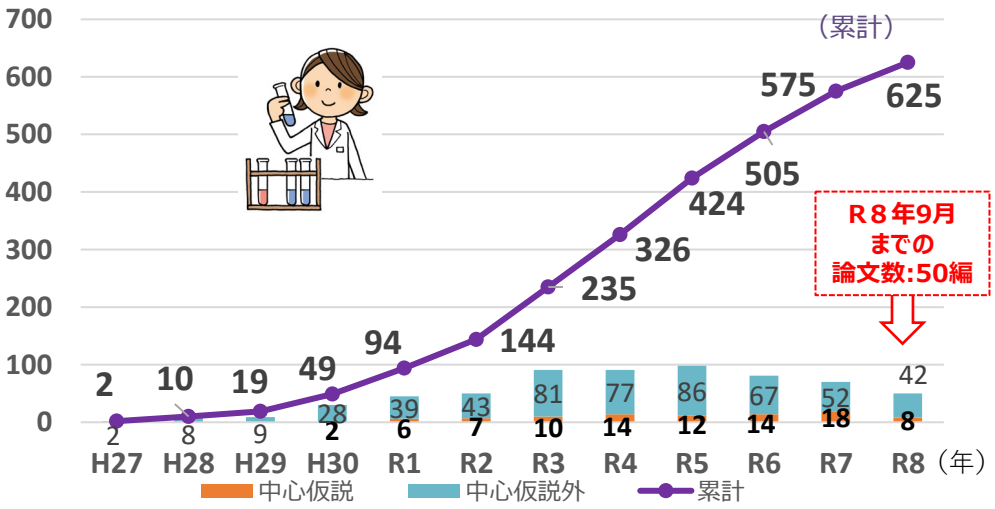
- エコチル調査の目的は、化学物質のばく露等が、胎児期から小児期にわたる子どもの健康にどのような影響を与えているかを明らかにし、リスク管理当局や事業者への情報提供を通じて、適切なリスク管理体制の構築につなげることである。
- 化学物質等の環境要因が健康に与える影響を解明するため、**約10万組の親子を対象としたエコチル調査を平成22（2010）年度から15年以上継続して実施しており、高い参加率を維持**。
- 参加者の血液等の**生体試料（約650万検体）**を採取・保存・分析するとともに、質問票等による追跡調査を実施。
- 開始時に策定した学童期（～12歳）までの基本計画を、**「エコチル調査企画評価委員会」の議論※を踏まえて改定(令和５年3月30日公表)し、13歳以後の調査を継続中。** ※「健康と環境に関する疫学調査検討会」報告書(令和４年3月29日)を受けて議論
- **18歳以降の調査に関して、エコチル調査基本計画改定案を検討中。**

エコチル調査実施体制



研究成果

- 令和８年9月末時点までの全国データを用いた論文数は**625編（中心仮説は91編）**。
- 妊婦の化学物質等のばく露と、子どもの体格やアレルギー疾患等の健康影響との関連が明らかとなっている。



＊中心仮説：胎児期～小児期の化学物質ばく露等の環境要因が、妊娠・生殖、先天性形態異常、精神神経発達、免疫・アレルギー、代謝・内分泌系等に影響を与えているのではないか。

成果発表一覧
https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/publications.html

エコチル調査の成果の社会還元の例

環境省 Ministry of the Environment

食品安全委員会の評価書、妊婦や子どもの健康に関するガイドライン等の策定に貢献

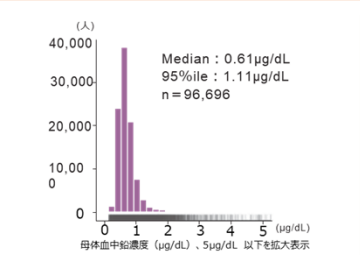
●食品安全委員会　評価書

3件：「評価書　鉛（2021年６月）」
「評価書　アレルゲンを含む食品(卵)（2021年6月）」
「評価書　PFAS（2024年６月）」

●引用の具体例

「評価書　鉛（2021年６月）」

Ⅱ.食品健康影響評価　1.ばく露
（２）血中鉛濃度の概要
・我が国及び諸外国の血中鉛濃度の状況や、現在の我が国の血中鉛濃度の分布について解析結果が記載されている。



エコチル調査の対象者（妊婦）の血中鉛濃度
出典：「評価書　鉛」（内閣府食品安全委員会）の図を元に作成
(https://www.fsc.go.jp/osirase/lead_and_health_assessment.html)

Ⅱ.食品健康影響評価　4.ヒトにおける影響
（１）小児、（２）成人
・胎児の成長等への影響に関する研究結果、内分泌系／免疫系への影響に関する研究結果がエビデンスとして引用されている。

「評価書アレルゲンを含む食品(卵)（2021年６月）」

Ⅳ.食品健康影響評価　２.有病割合及び自然経過
・母親の卵白特異的 IgE 抗体価の陽性率や、食物アレルギーの有病割合、食物アレルギーの生涯有病割合といった解析結果が記載されている。

「評価書　PFAS（2024年６月）」

Ⅳ. 健康影響に関する知見の概要　５．免疫
・妊婦のPFASばく露と、子どものぜん鳴及びぜん息並びに川崎病との関連が見られなかったことが記載されている。環境省が水道水質基準策定並びに公共用水域等の目標値等（基準値や指針値）の設定の際に使用する、食品安全委員会が作成する評価書には、エコチル調査の研究結果が反映されている。

●ガイドライン等

９件：「産婦人科診療ガイドライン　産科編2023」
「小児気管支喘息　治療・管理ガイドライン2023」
「ASQ-3乳幼児発達検査スクリーニング質問紙」
「食物アレルギー診療ガイドライン2021」
「食物アレルギーの診療手引き2020」
「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2021」
「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2024」
「「はじめの100か月」企業向けガイドブック」
「市町村向け手引書「はじめの100か月の育ちビジョン」」

●引用の具体例

「小児気管支喘息　治療・管理ガイドライン」

第3章「疫学、発症の危険因子と一次、二次予防」
・日本国内の最新疫学データとして、喘息・喘鳴の有病率や危険因子の解析結果が記載されている。
・特に妊娠中の喫煙、住居環境などの環境要因が喘息発症リスクに関連するエビデンスとして引用。

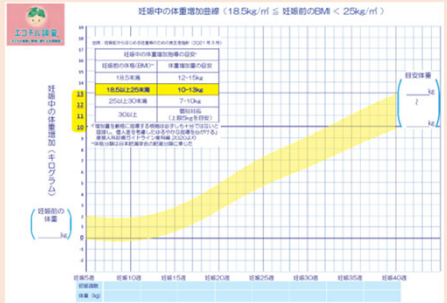


日本小児アレルギー学会作成, 滝沢琢己, 他監修. 協和企画, 2023.

「妊娠中の体重増加曲線（妊娠前BMI別）」（2021年9月報道発表）」

妊婦（約10万人）の健診情報を用いて妊娠前BMI別に4通り作成

（例）妊娠前BMI18.5～25



出典：国立成育医療研究センター
ホームページプレスリリースより(2021年9月28日)
(https://www.ncchd.go.Jp/press/2021/210928.html)

2025年11月12日 令和7年度第1回エコチル調査企画評価委員会　資料2-1を元に更新

資料２－２

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

環境省の取組について



環境省
Ministry of the Environment

目 次

1．実施体制

2．運営体制

3．予算

4．政府戦略等におけるエコチル調査の位置付け

5．企画評価

6．国際連携

7．広報活動

1．実施体制

エコチル調査の実施体制

環境省
- ●調査結果を用いた環境施策の検討
- ●予算の確保

連携
- 厚生労働省
- 文部科学省
- こども家庭庁
- 国際機関（ＷＨＯ）等

令和８年度当初予算　51.2億円

コアセンター（国立環境研究所）
- ●調査実施の中心機関
- ●データ管理
- ●試料の保存分析、精度管理
- ●質問票調査の実施
- ●ユニットセンター管理・支援

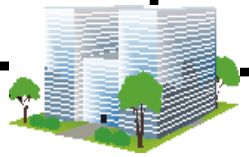
メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）
- ●調査における医学的支援
- ●アウトカムの測定に関するプロトコール作成支援
- ●調査に関わる医療関係者への指導・支援

地方公共団体
- ●地域住民への普及啓発・広報
- ●母子健康手帳発行窓口等によるリクルートへの協力
- ●法律に基づいて行政データの提供

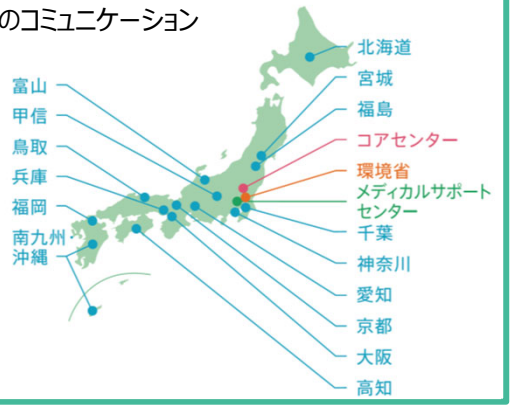


協力医療機関
- ●ユニットセンターの呼びかけに応じ、地域の医療機関（大学病院、一般病院、診療所等）が参加者のリクルートや生体試料の採取に協力

連携



ユニットセンター（大学等、全国15か所）
- ●参加者のリクルートと追跡調査
- ●生体試料の採取、質問票調査の実施
- ●個別相談窓口など参加者とのコミュニケーション



エコチル調査における環境省の役割

- 本調査で得られた成果等を用いた環境政策の検討
- 調査等を推進するための予算の確保
- 関係各省庁、国際機関等との連携
- 国民に対する広報
- 情報発信等の成果の社会還元

2．運営体制

エコチル調査の運営体制

【環境省】　（「疫学研究に関する審査検討会」にエコチル調査の進捗状況等について報告し、倫理的事項について助言と指導を行う。）

エコチル調査企画評価委員会
← エコチル調査企画評価ワーキンググループ
エコチル調査基本計画改定ワーキンググループ

【コアセンター】
国立環境研究所

報告等※ ↑↓ 指導・助言

（医学研究倫理審査委員会に倫理的事項を諮り、承認を受ける。）

運営委員会
⇔ 倫理問題検討委員会
⇔ データ共有審査委員会

※企画評価委員会への報告等：環境省に設置される企画評価委員会に対して、研究の計画、遂行、運営に関する報告を定期的に行い、指導・助言を受ける。

中心仮説WS

【協議会】
- ユニットセンター連絡協議会
- コアセンター・メディカルサポートセンター協議会
  - ユニットセンター実務担当者会議

【専門委員会】
- 学術専門委員会
  - 測定結果返却対応分科会
  - 調査資料作成ワーキンググループ
- 参加者コミュニケーション専門委員会
- パイロット調査専門委員会
  - ELSI・PPI調査研究分科会
- 疫学統計専門委員会
- 曝露評価専門委員会
  - 精度管理分科会

（プログラムオフィス機能）

【メディカルサポートセンター 】
国立成育医療研究センター

ワーキンググループ
- 質問票作成ワーキンググループ会議
- 対面調査ワーキンググループ会議
- 遺伝子解析検討ワーキンググループ会議
- データマネジメント検討ワーキンググループ会議

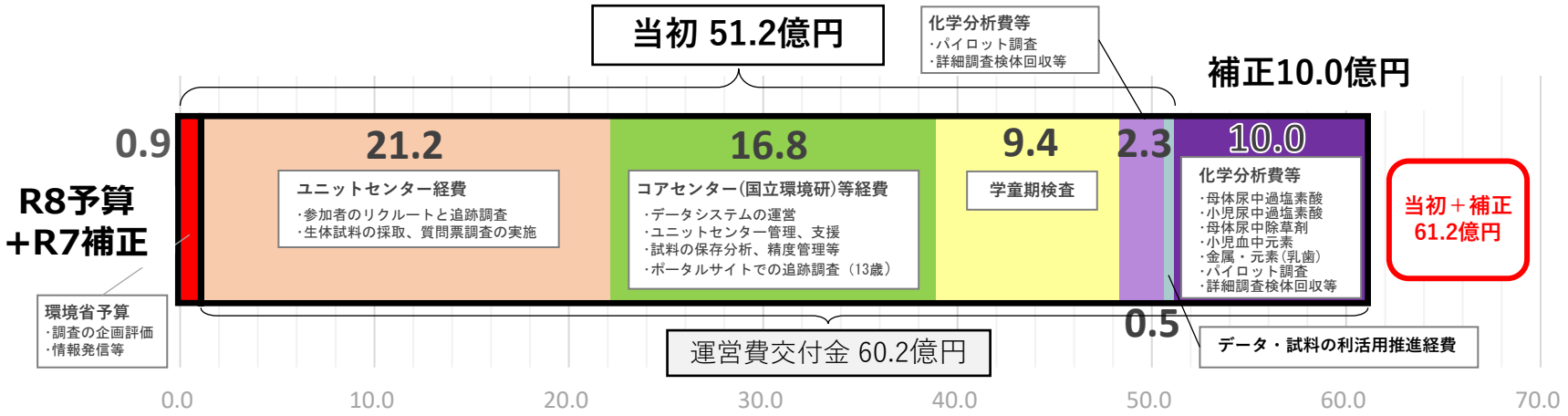
専門プロジェクト
- スーパーバイスチーム
- 精神神経発達分野プロジェクト会議
- 内分泌分野プロジェクト会議
- アレルギー分野プロジェクト会議
- 分野横断的検討プロジェクト会議

3．予算

年度当初予算等

- 令和８年度当初予算：約51.2億円を計上。
  - ▶ 追跡調査、詳細調査（環境調査、医学的検査、精神神経発達検査）、成長過程における化学物質ばく露等を評価する「学童期検査」の実施、これまでに採取した生体試料の化学分析の実施、研究成果を社会に還元するフォーラムの開催等の「広報事業」の実施予算

- 令和７年度補正予算として10.0億円を計上。



令和８年度エコチル調査関連予算及び令和７年度補正予算

【これまでの予算額】(億円)

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
当初予算	31	46	45	40	47	45	45	45	51	59	55	56	56	56	56	55	51
補正予算等	–	16	21	10	12	13	13	9	–	5	6	6	6	6	6	6	10

４．政府戦略等におけるエコチル調査の位置付け

環境省 Ministry of the Environment

環境基本計画

● 第六次環境基本計画（令和６年５月閣議決定）

第1部 環境・経済・社会の状況と環境政策の展開の方向
　第1章 環境・経済・社会の現状と課題認識
　４ 環境面の主に30年の振り返りと課題認識
（5）環境汚染及び化学物質管理の変遷と課題
（略）国際的には、化学物質が健康に与える影響の解明に資する疫学調査がいくつかの国で実施されており、我が国において約 10 万組の親子に協力を得て実施されている**「エコチル調査」**は、大規模疫学調査として、その成果の活用が期待されているところである。

第3部 環境保全施策の体系
　第1章 環境問題の各分野に係る施策
　５包括的な化学物質対策に関する取組
（2）情報に基づく意思決定と行動を支援する知識・データ・情報が作成され利用が可能となりアクセスできる状態の確保
　③ ばく露モニタリング
　　各種モニタリング等の効率的な利用を図る。具体的には、環境中の化学物質等の環境要因が子どもの健康に与える影響を解明することにより、適切なリスク管理体制を構築し、安全・安心な子育て環境の実現につなげることを目指し、**約10万組の親子を対象とした大規模かつ長期の出生コホート調査を着実に実施する。**
（3）懸念課題への対応
　　人の健康の保護の観点から、その目標値や基準、管理の在り方等に関し国際的にも様々な科学的な議論が行われ、社会的に関心が高まっている PFAS については、引き続き**エコチル調査**において健康影響に関する知見を集めるとともに、一般的な国民のばく露状況の経年変化等を把握するための血中濃度調査や環境モニタリングを実施する。（略）

こどもまんなか実行計画

● こどもまんなか実行計画2025（令和７年６月閣議決定）

第３章　こども施策を推進するために必要な事項
２　こども施策の共通の基盤となる取組
（１）「こどもまんなか」の実現に向けたＥＢＰＭ
（こども施策に関するデータの整備）
（略）
エコチル調査の推進
こども施策に関するデータの整備、エビデンスの構築を行うため、胎児期から小児期にかけての環境要因がその後の健康に与える影響を明らかにするための調査である**「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」**を着実に進める。得られた成果を、関係省庁や地方公共団体等に共有することで、ガイドライン・事業の策定・改定など関連するこども施策につながることが期待される。【環境省】

● こどもまんなか実行計画2026（令和８年６月策定）

Ⅱ　こどもまんなか実行計画 2026 において特に取り組むべき施策
２　具体的施策
（４）産・官・学の総力を挙げた「こどもまんなか社会」の実現
⑤研究機関等と連携した、こども関連研究の推進
（略）
また、データの二次利用を推進するとともに、**エコチル調査**やデジスタンス調査等のこどものデータ基盤となる長期調査についても引き続き推進する。

こどもまんなか実行計画の施策の進捗状況を検証するための指標
Ⅱ－２－（４）（産・官・学の総力を挙げた「こどもまんなか社会の」実現）
エコチル調査全体データを利用した論文の数

統合イノベーション戦略

● 統合イノベーション戦略2025（令和7年６月閣議決定）

別添 Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策
４.官民連携による分野別戦略の推進
（２）バイオテクノロジー
　＜健康・医療＞
　実施状況・現状分析
　　・化学物質等の環境要因が子どもの健康に与える影響を検討する**エコチル調査**について、令和４年度から着手した親子の遺伝子解析を着実に実施。
　今後の取組方針
　　・化学物質等の環境要因が子どもの健康に与える影響を検討する**エコチル調査**については、令和４年度から着手した遺伝子解析を令和７年度も着実に推進。【環】

● 統合イノベーション戦略2026（令和８年７月閣議決定）

３．技術領域の戦略的重点化
（２）17の重要技術領域
⑮バイオ・ヘルスケア関連技術
（特に重点を置くべき施策）
　＜関連する施策＞
・化学物質等の環境要因が子どもの健康に与える影響を検討する**エコチル調査**において化学分析や遺伝子解析等を実施する。【環】

５．企画評価（令和8年度の取組）

環境省 Ministry of the Environment

企画評価委員会における検討

- 企画評価委員会においてエコチル調査の企画評価の事項等に関する検討。

委員会・ワーキンググループ	検討事項
令和８年度第1回企画評価ワーキンググループ （令和８年８月４日（火）開催）	● 令和８年度及び令和９年度年次評価方法について検討 ● 令和８年度及び令和９年度の広報戦略について検討
令和８年度第１回基本計画改定ワーキンググループ （令和８年10月14日（水）開催）	● エコチル調査の実施状況について報告 ● エコチル調査基本計画の改定について検討

エコチル調査実施機関への支援

- 調査現場における様々な課題の解決を支援するため、年次評価で収集した「PDCAサイクルに基づく優良な取組」を好事例集として取りまとめ、ユニットセンターに配布。

６．国際連携（令和８年度の取組）

環境省 Ministry of the Environment

１.環境と子どもの健康に関する国際作業グループ

(Environment and Child Health International Group : ECHIG)

目的：　メンバー間における情報交換、研究プロセスのハーモナイゼーションにより、調査手法の比較、データ統合解析調査結果の複合解析（combined analysis）、データ・プーリングの手順を開発すること

参加者：　日本、ドイツ、ノルウェー、デンマーク、フランス、米国、韓国の大規模コホート調査等に所属する専門家

世界保健機関（WHO）の国際がん研究機関（IARC）が事務局として参加

取り組み：

ECHIG定例会議	隔月で開催されるWEB会議に参加、政府としての意見
ECHIG ワークショップ	● 令和８年９月28日～30日：国際作業グループ会議のワークショップに現地出席（フランス・リヨン）

7．広報活動（令和８年度の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

環境省
Ministry of the Environment

- 「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の広報戦略指針」（※）及び同指針に基づく広報戦略を踏まえ、調査対象者や医療機関・研究者に加えて、広く一般の方々にエコチル調査を理解してもらい、調査参加者に長期にわたる追跡調査に継続して参加してもらえるような意識を醸成すること及び調査成果の正確な情報発信・社会還元を図るため、様々な広報活動を実施。

※令和５年３月改定（エコチル調査戦略広報委員会／参加者コミュニケーション専門委員会）

イベント	■ 令和8年度「環境省こども霞が関見学デー」への出展 ■ 第２回エコチル調査全国フォーラムの開催
成果の情報発信	■ ホームページ等による情報提供 ■ 論文報道発表の公表 ■ パンフレット等の配布
その他の広報活動等	■ エコチル調査サポーター制度の運用・メールマガジン配信 ■ エコチル調査SNSの運用 ■ 広報活動の効果測定（SNS投稿に関する情報収集分析） ■ 科学館等における展示物の活用 ■ 外部との連携 ■ 出前授業 ■ リスクコミュニケーション研修

環境省 Ministry of the Environment

イベント

令和８年度「環境省こども霞が関見学デー」への出展

【開催報告（ダイジェスト）】

- ７月29日～30日、令和８年度「環境省こども霞が関見学デー」へ『遊んで・学んで 君もエコチル調査博士？！』を出展。
- エコチル調査の研究等に関する内容を科学実験を通して体験するプログラム。
  エコチル調査の説明のポスターを掲示し、AGEスキャナー※、ケミカルパズル、エコチル調査オリジナルかるた、エコチル調査の全国版パンフレット、エコチル調査全国フォーラムのチラシなどを紹介した。
  ※加齢現象や健康に関わるといわれる最終糖化産物（Advanced Glycation Endproducts）を計測する機器。

（詳細） https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/2026_kids_kengaku.html

プログラム内容

【１】エコチル調査に関する研究内容などを展示でご紹介します。

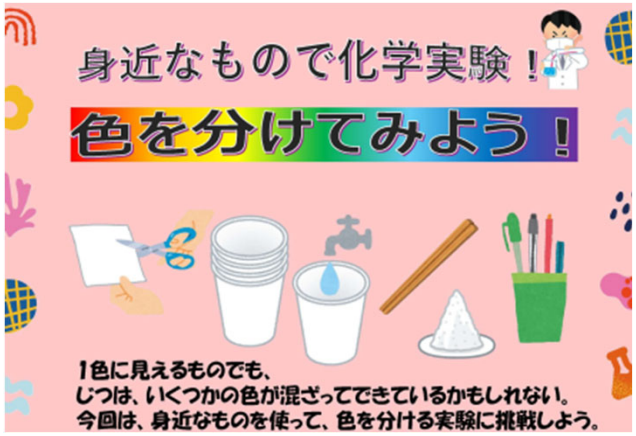
【２】研究者になれるかな？　身近なもので化学実験！色を分けてみよう！（クロマトグラフィー測定体験）★事前申込制※

※ 7/29、30とも4回実施、各回6名募集。6月29日から募集を始め、7月3日に定員となった。

【３】分析装置で、健康の分野で注目されているAGEsを測定してみよう！

【４】ケミカルパズルで遊んで学ぼう！

【５】エコチル調査のような大規模データを簡単に解析してみよう！パソコンでいろんなグラフが作れるよ！



環境省 Ministry of the Environment

第２回エコチル調査全国フォーラムの開催



【日程】令和８年１２月５、６日（土、日）

【会場】東京大学 本郷キャンパス内

【目的】

全国規模のイベントを通じて、子ども達に「環境保健を知るための場」、「自己表現の場」、「様々な未来の可能性を知る場」を提供し、子ども達自らが、エコチル調査結果等を用いた研究発表を行なう事によって科学的思考を育むと共に、エコチル調査に関連するテーマの書道、かるた、短歌の公募を通して、「エコチル調査の意義」を国民に広める。

【主な対象】

小学生、中学生、高校生およびその保護者の世代

※公募の各イベントには参加資格として年齢、カテゴリーの制限を設けるが、当日のフォーラム参加には年齢制限なし。

7．広報活動（令和８年度の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

第２回エコチル調査全国フォーラムの開催



【開催に向けた準備状況】

■特設HP開設

https://smartconf.jp/content/2_eco_child

■各種プログラムの募集終了

オリジナルかるた／書道／短歌／小倉百人一首競技かるた大会参加チーム／研究発表会／ランチョンセミナー／ ランチョンセミナー附設展示／北川進先生座談会

■入賞作品・受賞者等を特設HPで紹介・紹介予定

- オリジナルかるた　入賞作品
- 書道展・短歌展　受賞者
- 小倉百人一首競技かるた大会　参加チーム
- 研究発表会（ポスター）　発表内容一覧
- ランチョンセミナー　内容
- ランチョンセミナー附設展示企業・団体一覧

【応募数】※10/27時点

オリジナルかるた	175件	－
書道	3,024作品	－
短歌	計132作品	高校生以下86作品、一般46作品
競技かるた大会	8チーム	小中高校生の団体：4チーム 和装団体：4チーム
研究発表	63件	富山県、山梨県、京都府、大阪府の学校からもエントリーあり
北川先生座談会	22名	－
附設展示	24小間	企業・団体ブース：17件19小間 エコチル調査展示：4件5小間

7．広報活動（令和８年度の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

環境省 Ministry of the Environment

成果の情報発信

ホームページ等による情報提供（随時）

- エコチル調査の論文を一般向けにわかりやすく伝えるため、平成30年6月から和文抄録付きの成果発表一覧を掲載、随時更新（令和８年10月8日現在、614件）。
- 中心仮説に関する論文の報道発表は、一覧に掲載する際、新着情報としてトップページにも掲載。
- イベントの動画や資料、対話事業の資料を掲載。

論文報道発表の公表（随時）

- 中心仮説に関する論文発表時に、大学や国立環境研究所が報道発表し、環境省のホームページでもお知らせ。
- 正確な情報伝達のため、平成30年度に戦略広報委員会で報道発表のプロセスと資料の様式、チェックリストを作成し、関係者に周知して運用（実態にあわせて更新）。

パンフレット等の配布（随時）

- エコチル調査の概要を解説した全国版パンフレット、エコチル調査の成果紹介パンフレットを随時配布（配布先：展示会、学会、研究会、企業の環境関連協議会、スーパーサイエンスハイスクールや自治体・教育委員会等）。

成果発表の発信例



イベントの発信例





←成果紹介パンフレットの例
https://www.env.go.jp/content/000215015.pdf

7．広報活動（令和８年度の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

環境省 Ministry of the Environment

その他の広報活動等

エコチル調査サポーター制度の運用（令和７年度改定）・メールマガジン配信

【制度のねらい】 エコチル調査のより効果的・効率的な推進に資するよう、一般市民、研究者、有識者、企業・団体等の応援・協力を得る。

エコチル調査サポーター

サポーター代表から名称変更

アンバサダー



個人サポーター



再開

企業・団体サポーター

準備中

エコチル調査隊

＜ 概要（選定/登録方法、対象、期待されること） ＞

- ■ 環境省から、趣旨にふさわしい様々な分野の方に依頼。
- ■ 調査参加者、科学・医学等の未来を担う中学生・高校生、または広く国民に向けてエコチル調査に関連するメッセージをいただく。
- ■ エコチル調査に対するメッセージを発信していただく。
- ■ エコチル調査のメディアにおける露出度を高め、情報を拡散していただけることも期待。

- ■ エコチル調査ホームページから登録可能。メールマガジンを配信。
- ■ エコチル調査に関心のある国民どなたでも対象。
- ■ メールマガジンを通じて、エコチル調査の進捗・意義・成果等について理解を深めていただく。またエコチル調査に関する会議やイベント、SNS開設等のお知らせにより、参加、フォロー・拡散を期待。

- ■ エコチル調査ホームページから応募を想定。メールマガジンを配信。
- ■ エコチル調査に関心のある・応援していただける企業・団体が対象。
- ■ 全国フォーラム等イベントの情報拡散、参加協力を期待。
- ■ 登録いただいた連絡先に企業向け情報提供・協力依頼などをさせていただく。

- ■ エコチル調査ホームページから応募を想定。メールマガジンを配信。
- ■ エコチル調査に積極的に参加したい小学生、中学生、高校生、大学生等が対象。
- ■ 情報を受け取るだけでなく、能動的にエコチル調査に関わっていただく。（（例）調査に関するアンケートやヒアリング、イベントへの協力、調査研究に関する体験など）
- ■ 将来調査の運営や研究に携わってくれるきっかけになることも期待。

７．広報活動（令和８年度の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

環境省 Ministry of the Environment

■アンバサダー（サポーター代表から名称変更）

- 第１回エコチル調査全国フォーラムにてご協力いただいた３名の方々が新たにアンバサダーに就任（令和７年度末）

  佐竹 美希 さん（フリーアナウンサー）

  坂井 修一 さん（歌人・現代歌人協会理事長／東京大学副学長・附属図書館長・特任教授）

  大谷 洋峻 さん（書道家、一般財団法人日本書道美術院理事長）

- 令和８年７月現在、アンバサダーは３名、サポーター代表は延べ18組（20名）。

■個人サポーター・メールマガジン配信

- 調査に対する社会全体の理解と応援を得る目的で、サポーター登録制度を設け、登録していただいた方にはエコチル調査に関する会議やイベント、成果等を掲載したメールマガジンを配信。
- 令和８年10月16日現在、個人サポーター数は3,581人、メールマガジンは通算142号。

■企業・団体サポーター（再開）

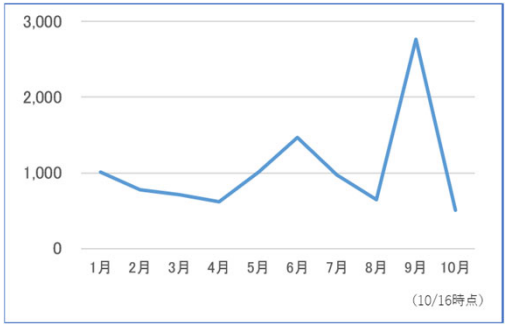
- 令和８年３月に受付を再開
- 令和８年10月16日現在、13社が登録

  ジーエルサイエンス株式会社、株式会社ビーフォース、エーエムアール株式会社、株式会社島津テクノリサーチ、株式会社久留米科学機器、株式会社アイスティサイエンス、朝来食品、株式会社木下カンセー、日本薬科機器協会、加山興業株式会社（順不同、公開可の企業のみ）

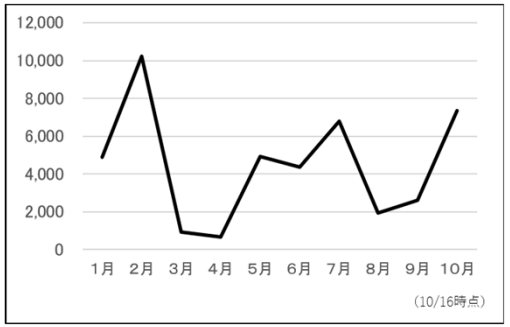
7．広報活動（令和８年度の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

エコチル調査SNSの運用／広報活動の効果測定（SNS投稿に関する情報収集分析）

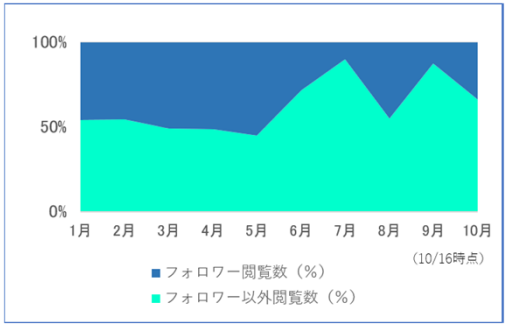
- Facebook、Xのエコチル調査公式アカウントを令和８年１月に開設、運用スタート。
- エコチル調査の進捗（基本計画改定等）、成果発表、委員会、イベント案内や開催報告記事等を発信する。**（10月16日時点投稿数　Facebook 45回、X 53回）**
- 環境省・エコチル調査関係者・関係機関SNS、メルマガ、HPなど関連メディアと連携（リポストなど）
- 令和８年10月16日時点のフォロワー数：Facebook 64人、X 112人
- Facebookの閲覧数※：フォロワー以外の閲覧が約４～９割。
- Xの閲覧数※※：環境省公式アカウントがリポストした投稿は閲覧数が大幅に増加。



Facebookの閲覧数の推移



Xの閲覧数の推移



Facebookの
フォロワー／フォロワー以外閲覧数の推移

配信回数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1回目	3,361	101	151	94	272	3,359	2,743	852	275	7,097
2回目	353	163	501	136	3,330	138	1,100	128	147	115
3回目	184	215	143	180	169	181	2,284	577	2,028	63
4回目	728	3,301	122	111	151	153	256	363	135	74
5回目	172	206		147	178	162	421			
6回目	87	168			832	381				
7回目		2,817								
8回目		3,248								
月合計	4,885	10,219	917	668	4,932	4,374	6,804	1,920	2,585	7,349

環境省公式アカウントがリポストした投稿

Xの閲覧数内訳

※Facebookの閲覧数：その月にコンテンツ（投稿）が再生または表示された回数。１月の投稿のものを２月に閲覧した場合、２月の閲覧数に加算される。

※※Xの閲覧数：各月に行った投稿の閲覧数の和。１月の投稿を２月以降に閲覧しても、１月の閲覧数に加算される。

科学館等における展示物（ケミカルパズル等）の活用

- 調査の認知度向上と内容理解促進を目的に、全国の科学館に貸出。
  今年度は２つの科学館から申し込み。

  夢と学びの科学体験館（刈谷市）（2026/5/15～7/5）
  長崎市科学館（長崎市）（2027/1/30～3/14）

- エコチル調査関係者及び自治体等へ展示物の貸出。

  東京都「Tokyo Mirai Park」（2026/1/16～6/10@日本科学未来館）
  環境省こども霞が関見学デー（2026/7/29～30@霞が関）





環境省 Ministry of the Environment

外部との連携

■学会との連携

- 成果に係る報道発表等の情報を関係学会に共有（発表ごとにメール配信）、学術集会において資料配布等を実施。

活動	対象･実績等
■ 成果に係る報道発表等の情報を共有	【関係学会】 （公社）日本産科婦人科学会、（公社）日本産婦人科医会、（公社）日本小児科学会、（公社）日本小児保健協会、（公社）日本小児科医会、（一社）日本小児期外科系関連学会協議会、（一社）日本学校保健学会
■ 学術集会等における広報活動（資料配布等）  	【実績】 ●令和８年３月　日本農芸化学会2026年度大会で広報資料を配布 ●令和８年３月　第96回日本衛生学会総会学術総会で広報資料を配布 ●令和８年３月　第23回日本臨床腫瘍学会学術集会で広報資料を配布 ●令和８年３月　日本薬学会第146年会で広報資料を配布 ●令和８年６月　第74回質量分析総合討論会（日本質量分析学会）で広報資料を配布。また、プログラムの中でエコチル調査について発表。 ●令和８年６月　第34回環境化学討論会（日本環境化学会）で広報資料を配布

7．広報活動（令和８年度の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

環境省 Ministry of the Environment

■関係省庁との連携

● 成果に係る報道発表等の情報を関係行政機関に情報共有（発表ごとにメール配信）、講演等を実施。

活動	対象・実績等
■ 成果に係る報道発表等の情報を共有	【関係行政機関】 内閣府、消費者庁、こども家庭庁、文部科学省、スポーツ庁、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省内
■ 会合や研修会における講演等	【主な実績】 ●令和８年３月　NIBN×環境省連携シンポジウム「エコチル調査の可能性 ～国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所とエコチル調査の連携で築き上げる未来」を開催。 ●令和８年４月　地方公共団体化学物質対策担当者説明会（環境省主催） ●令和８年６月　令和８年度化学物質対策研修（環境省主催・地方公共団体職員向け）においてエコチル調査について講義

■企業・業界団体との連携

● エコチル調査に関連する業界団体等の会合において、エコチル調査の概要説明や広報資料の配布等を実施。

活動	対象・実績等
■ その他機関における広報活動	【実績】 ●令和８年５月、９月　エコ・ファースト推進協議会運営委員会においてエコチル調査について発表、広報資料を配布 ●令和８年６月　日本薬科機器協会の総会・懇親会においてエコチル調査について発表、広報資料を配布

環境省 Ministry of the Environment

出前授業

■実施実績

【令和８年度】

- 科学館における出前授業

  令和８年６月21日、愛知県刈谷市 夢と学びの科学体験館にて、『色を分けてみよう！ ～身近なもので化学実験！～』を実施。

  午前と午後に１時間ずつ実施。事前申し込みにおいて10組満席となった。

  https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/2026_demaekouza.html







環境省 Ministry of the Environment

リスクコミュニケーション研修

- エコチル調査ユニットセンターの担当者を対象としたリスクコミュニケーション研修を開催。
- 令和８年度は、12月に座学形式での講義を実施予定。

＜実施内容＞

研修対象等	内容案
対象	ユニットセンター等においてSNSの原稿作成、投稿等の担当をしている方
形式	セミナー形式（対面）　※後日視聴できる期間を設ける予定
内容（仮）	SNSを活用した情報発信や、SNSを日常的に運用していく上での留意点など
講師（2名予定）	長谷川聖治氏（株式会社エフエムナックファイブ） 堀口　逸子氏（慶應義塾大学医学部　非常勤講師） ※両氏ともエコチル調査企画評価ワーキンググループ委員
講義時間	各30～60分以内程度
開催時期・場所	2026年12月５日（土）10:00～11:30 東京大学本郷キャンパス伊藤国際学術研究センター会議室 ※第２回エコチル調査全国フォーラムと同じ時期、同じ場所で開催し、全国フォーラムへの来場と併せて受講できるようにする。